

かざね
四万十の風音

しんせん
森&川だより

ニホンジカの捕獲に向けて、小型囲いワナを更新設置

当センターでは、四万十森林管理署管内の黒尊山、愛媛森林管理署管内の滑床山国有林周辺において、ニホンジカ被害地の自然再生、植生回復事業に取り組んでいるところですが、更に対策を推進していくために、平成23年度から囲いワナによるニホンジカの捕獲を実施しているところです。

今年度においても当地域のニホンジカの森林への被害が継続している状況にあることから、引き続き両地域でニホンジカの捕獲を実施します。7月に地元の猟友会と委託契約を行い、8月より来年3月まで実施することにしました。

また、昨年度まで設置していた小型の囲いワナが、老朽化したことから、新たに森林技術・支援センターで改良が施された小型の囲いワナに更新することとし、黒尊山国有林周辺に2基、また、滑床山国有林周辺に4基を更新設置しました。

なお、囲いワナを設置してからの捕獲実績は、平成23年度が11頭、平成24年度が25頭、平成25年度が42頭、平成26年度が25頭となっています。今回小型の囲いワナを更新設置したことで、既設のネット式の大型の囲いワナ（周囲をシカ防護ネットで囲ったもので、ネットの延長は、黒尊山が一基、約70m、目黒山が一基、約60mであり、ネットの中が広くニホンジカが入りやすい構造）と中型囲いワナ（黒尊山が三基、6m×10m×2m）、とあわせ、ニホンジカの捕獲頭数が更に増え、森林への被害が少しでも減少することを期待して取り組んでいます。

囲いワナの設置種類等

黒尊山国有林周辺 6基

滑床山国有林周辺 5基

○大型：ネット周囲約70m 1基

○大型：ネット周囲約60m 1基

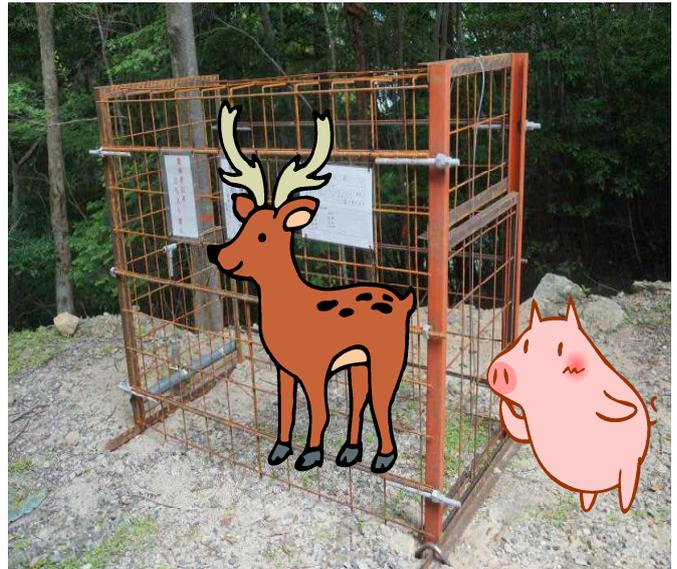
○中型：6m×10m×2m 3基

○小型：2m×1.2m×1.6m 2基

○小型：2m×1.2m×1.6m 4基



黒尊山国有林周辺小型囲いワナ設置状況



滑床山国有林周辺小型囲ワナ設置状況

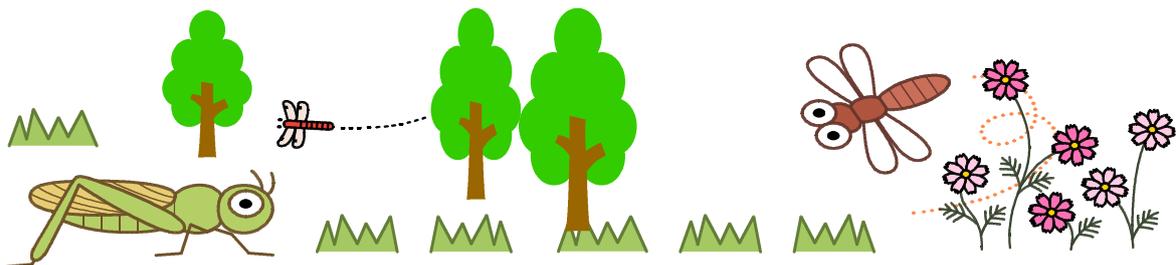
黒尊親水公園の森林再生

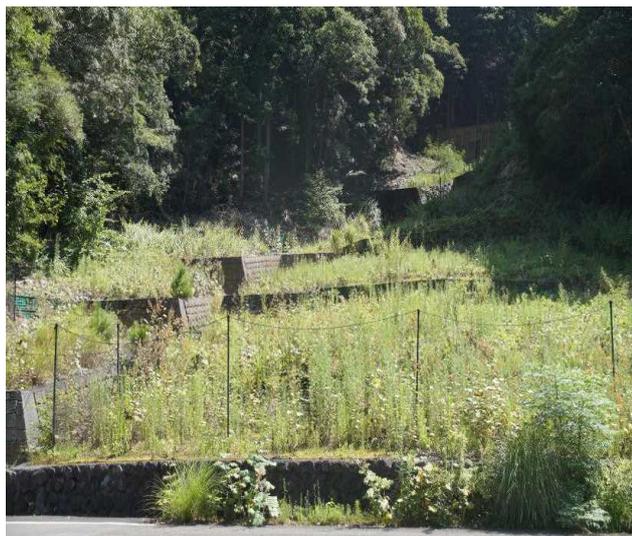
広葉樹植栽地のシカ防護ネット柵の点検とあわせて、 下刈作業を実施しました。

当センターでは、自然再生事業の新たな取組として、平成25年11月に、四万十森林管理署管内の黒尊溪谷親水公園周辺の自然再生を行うために、四万十川地域住民を代表する組織「しまんと黒尊むら」と協働で、親水公園に隣接する黒尊山国有林9林班に、ヤマザクラ、イロハモミジ、ケヤキ、コナラ、クヌギ等広葉樹の植栽と、シカ防護ネット30mを設置しているところです。

この実施箇所は、平成16年の台風10号に伴う集中豪雨で、親水公園に隣接する国有林の山腹が崩壊し、四万十森林管理署が平成17年度に谷止工等の治山工事を実施して、クヌギ、ケヤキ、サクラを植栽したものの、シカの食害により全滅し、現地にはタケニグサやフユイチゴ等のシカの忌避植物以外は生育せず、このままでは林地が荒廃し、溪谷美も損ねている状況であり、地域の方からの強い要望があったものです。

今夏、広葉樹の植栽地が雑草の繁茂が著しく、生育を阻害していることから、8月6日に、シカ防護ネット柵の点検とあわせて、職員実行で下刈作業を実施しました。



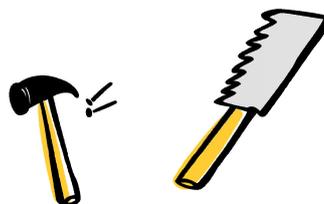


下刈作業前の状況



下刈作業後の状況

夏休み親子木工教室を開催



8月9日の日曜日、鬼北町立近永小学校で、六年生24名と父兄を対象に、親子木工教室を開催しました。

最初に、怪我のしないように、道具の使用方法や製作時の注意点について説明した後、サクラ、ミズメ、ヒメシャラなどの木の枝を使って、親子で自由製作に挑戦しました。

短い時間でしたが、ノコギリやクラフトナイフ、剪定バサミなどを使い、小枝等を加工して、慣れない手工具に悪戦苦闘しながらも、先生や当センター職員の手助けも借りながら、自分達で創意工夫をして、クマやシカ等の置物やクマのストラップなどのオリジナル作品を完成させました。

夏休み中に、児童と親御さんが一緒に、木を使っていろんな工作ができたことで、今後も木に親しみ、利用してもらいたいと思います。



木工クラフト製作中の様子



木工クラフト製作中の様子



完成したクマのストラップ



完成したシカの置物



完成したシカの置物 ヤッター

滑床溪谷の樹木名板の付け替えを実施



足摺宇和海国立公園特別地域である滑床溪谷の万年橋から雪輪の滝までの遊歩道沿いに設置してある樹木名板が老朽化し、文字が読めない状態となっていることから取り替えることとし新たに樹木名板を購入しました。

設置については、「滑床を愛する会」の協力を得、9月4日にメンバーの皆さんと一緒に、樹木名板の付け替え作業を行いました。

当日は、宇和島ケーブルテレビもその様子取材に来ていました。

付け替えが済んで真新しい樹木名板になったことで、滑床溪谷を訪れる人達に、樹木名を1つでも覚えて帰ってもらえればと考えています。



樹木名板の付け替えの様子



樹木名板付け替えの様子



樹木名板付け替え後の状況

二校で、森林教室「空飛ぶ種子」を開催

愛媛県松野町立松野西小学校の四年生及び宿毛市立小筑紫小学校の五年生は、毎年度「総合的な学習の時間」を利用して森林や樹木等の学習をしています。

9月11日に松野西小学校四年生26名、9月29日に小筑紫小学校五年生14名を対象に、森林教室「空飛ぶ種子」を実施しました。

両校とも、草や木の種子の特徴や樹木が様々な方法で種子を散布する方法について学習しました。



松野西小・森林教室（風洞実験）の様子

風を利用して回転しながら運ばれる種子もあれば、甘い果実で覆われた種子は、動物に食べられて、フンと一緒に散布されます。また、「リス」や「ネズミ」などの食物を貯蔵する習性を持った動物を利用して、種子の移動と貯蔵、食べ残しを期待する方法もあります。さらに、水に浮いて流れて、散布する種子もあります。さやがはじけたり、ドングリのように転がって散布する植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布することをパワーポイントを使って紹介しました。

その後、「カエデ」「テイカカズラ」「アルソミトラ」（東南アジア産のウリ科の植物）の風を使って飛ぶ種子が、実際にどのように飛ぶかを実物を使って観察しました。大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのように飛ぶ様子に「オー」と驚いていました。

次に、「ニワウルシ」「ラワン」「マツ」「アルソミトラ」の種子の模型をスチレンシートや色紙等を使って作りました。

その後、「カエデ」「テイカカズラ」



松野西小・作った種子模型を飛ばす様子





小筑紫小・森林教室の様子

最後に、教室や中庭、体育館で、ラワンの種子模型やアルソミトラの種子模型を飛ばすと、くると回りながら落ちてくる様子に「おもしろい」と何度もみんなで飛ばしっこをしていました。

児童から終わりの挨拶の中で、草や木が種をまく方法に、「風を利用する」、「動物を利用する」、「水を利用する」、「自分の力で飛ばす」という大きく分けて4つの方法があることがわかりました。

また、東南アジアには、高さ70メートルもの木があり、大きな種が高いところから落ちてでもおれないうようにクルクルと回りながらゆっくりと落ちてくること、種子の特徴や色々な飛び方があることがわかりました。今日はどうもありがとうございましたと挨拶がありました。

今回の学習等を通じて、児童の草や木、自然に対する興味への入り口となってくれることを期待します。



小筑紫小・作った種子模型を飛ばす様子



林野庁 四国森林管理局

四万十川森林ふれあい推進センター
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2

電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031

